

『私の REFEEDING SYNDROME についての講義は高度過ぎる？ 付いてきて欲しい！』

2023年3月31日付で大阪大学国際医工情報センター栄養デバイス未来医工学共同研究部門を退職し、4月1日から、千里金蘭大学栄養学部の特別教授として働いています。仕事内容は変わりましたが、生活は、ほとんど変わりません。家を出る時刻は同じだし、大学へ着く時刻もほぼ同じ(中央環状線を降りる所が違うだけ)、研究室を出る時刻も同じ、土日でも研究室で仕事をするのですから。細かい点ではかなり違いますが。

入学式や仕事始めは4月10日の月曜日だろうと思っていたら、4月1日に入学式がありました。土曜日に、しかも4月1日に入学式、ちょっと驚き。3日に健康診断があり、最初の臨床栄養学Ⅱの講義が7日に始まりました。最初の1週間は、のんびりと部屋の片づけをしたり、事務的作業をしたりして、これからの生活を考えようと思っていたので、当てが外れました。早く新しい職場に慣れるという意味ではよかったです。

4月1日は9時半から栄養学部の拡大教授会。簡単に挨拶しました。11時からはパソコンなどの使い方の説明会。わからないことは、後で個別に教えてもらおう、と思いました。午後からの入学式は佐藤記念講堂で、厳かに執り行われました。私は、本当、初めての体験で、こんなふうに入學式って行われるんだ、という「御上りさん」的感覚でした。その後、栄養学部の新入生に挨拶し、新入生に対する大学内の案内に付いて回りました。15時から学部での写真撮影。屋外での撮影。暑い日だったし、西日がカンカン照りという感じで汗だく。その後、理事長から辞令交付を受けて、初日は終わりました。翌日の日曜日はいつものように大学に来て、部屋の片づけや講義の準備など。なんとか、仕事ができるように片付けることができました。

その後、いろいろ、パソコンの使い方などを個人的に教えてもらって、生活がスタートしました。毎日の仕事始めはパソコンで「出社」の打刻が必要。しかし忘れる！パソコンの近くに「出社の打刻 パソコンで」「出社の打刻！！」と張り紙をしています。「退社」の打刻も必要です。阪大のメールは半年は使えるようにしているのですが、千里金蘭大学の用事はほぼメールなので、学外の仕事のために新しいメールアドレスを作りました。こういう感じで仕事をしながら、新生活をスタートしました。



↑ 私の部屋の窓からの眺め。①は私の部屋から南側の大阪市内が見えます。④はその拡大で、アベノハルカスが見えます。③は南側の東側ですが、エキスポシティの観覧車、そして、太陽の塔が見えます。②は北側の景色で、箕面の山が見えています。毎朝、①の景色を見て、パソコンで出社の打刻をしてから仕事を始めています。

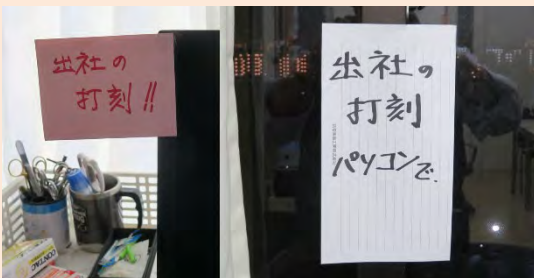


↑ 佐藤記念講堂です。この緞帳がすごい。女子大らしい、なのでしょうね。沿革は、1905年に、大阪府立堂島高等女学校の同窓会「金蘭会」が女子教育振興のために「私立金蘭会女学校」を設立したこと、です。120年の歴史があります。

講義の担当は「臨床医学」と「臨床栄養学Ⅱ」です。臨床医学はこれまでも講義してきましたが、臨床栄養学との兼ね合いで、ほぼすべて、スライドを作り直す必要があります。配布資料、毎回の小テスト作成と、結構、時間がとられます。もちろん、学生に楽しく講義を受けてもらおうと思っの「前振り」も作成しなければなりません。忙しくしています。学生は静かに聞いてくれている？そうですね、聞いてくれていると思っています。居眠りをしている学生もいますが…。実は、最初の授業で…怒りました。以後は、優しい先生のフリ？をしています。井上善文は他の先生とは違う、怒らせると大変だ、そういうイメージになったのではないのでしょうか。はっきりいうと、静かに受講してくれています。困っているのは、私自身が、話している内容について、臨床医学と臨床栄養学のどっちでしゃべったのかの区別がつかなくなっていることです。悩み中です。

学術活動は、15日に山梨県栄養士会研修会での講演。甲府に行きたかったのに、オンライン講演でした。まあ、なんとか、それなりに意義ある内容だったようです。途中で回線が中断したりするというハプニングがあり、「すみません」と何回も言われました。そういうことは気にしない性格です。栄養士会の飯島さんと深澤さんから、山梨の「限定生産」の「ぶどうジュース」を送っていただきました。ものすごいレアなものだそうです。ありがとうございました。

移動の挨拶はメールでさせていただきました。返信して下さった方も多くて、本当にありがたいことです。お祝いを送ってもらったり、寂しそうにしているから？会いに来てくれた方もいたりして感謝しています。4月20日には松末先生に食事に誘っていただきました。10年間、ご苦労様、まだまだがんばれ、と言われました。



↑ 出社の打刻をしない。パソコンで。忘れないように。しかし、これを貼っていても忘れる。まあ、仕方ないか。退社の打刻も忘れる。「退社の打刻！」の貼り紙も必要でしょうかね。

8月5日、6日の**第4回 Medical Nutritionist セミナー**、9月23日、24日の**第13回リーダーズ**の準備をそろそろ始めなくてはなりません。機関誌の編集作業もあり、忙しくしています。阪大の時よりも忙しくしているんじゃないかなあ。秘書の藤本さんがいなくて、准教授の博さんもいなくて、いろんな仕事を一人でしなくてはならなくなりましたから。まあ、がんばります。よろしく願います。



↑ 私の部屋からは大学の入口の門が見えます。これは4月1日、入学式の時の入口の写真です。入口に「千里金蘭大学入学式」の立て看板があり、親子で記念撮影していたのだと思います。だから、長い行列ができていたのでしょう。思い起こせば、入学式に親と一緒に行く、なんて、してもらわなかったし、しなかったし、です。



↑ 福嶋学長からの入学許可宣言と学生代表宣誓、です。右下は、栄養学部栄養学科の学科長、鎌田先生です。福嶋学長、慈愛に満ちた表情ですね。



↑ 入学式。左は福嶋学長、右上は島崎理事長。お二人とも、大阪大学第一外科、心臓血管外科出身。私は大阪大学第一外科、消化器外科出身です。壇上には各学科長が座っておられます。

小越先生：どうだ、新生活がスタートして1か月が過ぎたけど、慣れたかな。なかなかなじめなくて、もう5月病になっているんじゃないか？

ゼン先生：5月病になるとか、そんな年齢ではありませんが、本調子ではないですね。

小越先生：そうか。環境が変わると、その変化に対応しなければならぬから、気も使うだろう。しかし、部屋からの眺めがいいんだってな。

ゼン先生：本当に眺めがいいんです。眺めは抜群です。大阪市内が一望できます。天王寺のアベノハルカスも見えます。もちろん、エキスポシティの観覧車、太陽の塔も見えます。

小越先生：へええ。南向きなんだ。

ゼン先生：そうです。研究室は、南向きと北向きがあります。私の部屋は南向きで、反対側の北向きの部屋は、箕面方面の山の景色が見えます。要するに、どちらも眺めがいいんです。

小越先生：オレは、南向きのほうが好きだ。

ゼン先生：私もです。しかし、天気の良い日は太陽がまぶしくて、パソコンの画面が見えにくくなります。

小越先生：贅沢な悩みだ。カーテンを閉めたらいんじゃないか？

ゼン先生：もちろん、そうしていますが、景色が見えなくなるので・・・。

小越先生：本当に贅沢な悩みだ。ところで、昼飯はどうしてるんだ？

ゼン先生：いろいろです。

小越先生：コンビニ弁当か？

ゼン先生：それもあります。

小越先生：学生食堂はあるんだろう？

ゼン先生：あります。

小越先生：女子大生と一緒に食べてるのか？女子大生に囲まれて喜んでいるんじゃないか？

ゼン先生：それは無理です。そんな勇気はありません。学食で食べるのは・・・。

小越先生：それじゃあ、どこで昼飯を食べてるんだよ。

ゼン先生：なかなか学食へ入る勇気がなくて。コンビニで買ってきたりしていたんですが、勇気を振り絞って、学生が講義でいなくなった頃を見計らって学食へ行って食べました。13時になると学生は講義ですから。

小越先生：そうか、学食へ行ったか。一大決心だったんだ。

ゼン先生：そうです。学生達ににぎやかに楽しそうに昼飯を食べている学食の隅の方で、爺さんが一人で昼飯を食べている姿って、なんか、寂しいでしょう？

小越先生：そんなことを考える必要はないだろう。堂々と学食に行って昼飯を食べたらいいんじゃないか？



↑キャンパスは非常にきれいです。丁寧に整備しておられます。池には鯉がいます。噴水もあるようですが、噴水が上がっているのは、見たことがありません。本当に噴水が上がるのか、また、聞いておきます。誰か、偉い人が来る時は噴水を上げるのでしょうか。

ゼン先生：一応、2回、行きました。

小越先生：1か月で2回？なんだ、面白くない。

ゼン先生：でも、決心して行ったんです。

小越先生：料理の種類や味はどうなんだ？

ゼン先生：経営は生協なので、阪大の生協の食堂とほぼ同じです。料理の種類は少ないのですが。

小越先生：なんだ、そういうことか。

ゼン先生：はい。メニューにカレーがないんです。

小越先生：それは寂しい。やっぱりカレーは欲しい。

ゼン先生：でしょう？カレーがある日もありますが。

小越先生：毎日、学食で昼飯を食べる必要はないんだから、いろいろ考えて楽しみなさいよ。

ゼン先生：大学から阪急電車の北千里駅までは徒歩で15分ほどです。昼飯を食べに行くこともあります。往復30分以上ですが、散歩がてら。大学の北側の小野原へ行くこともあります。

小越先生：結局、阪大に食べに行くほうが近いんじゃないか？

ゼン先生：距離的にはほとんど変わらないはずですが。

小越先生：しかし、勤務先が変わったのに、昼飯を食べる所が同じなんていうのも、面白くないな。

ゼン先生：そうです。とにかく、歩いて、歩いて、いろいろ探してみます。

小越先生：それがいい。それも楽しいだろう。しかし、昼飯にあまり力を入れる必要はないんじゃないか？

ゼン先生：でも、ほとんど人としゃべることがないので、昼飯を食べるのは気分転換として大事なんです。

小越先生：なるほど、気分転換の意味もあるか。さあて、今回はどういう内容の会話にするつもりだ？講義の様子でも聞かせてくれるか？

ゼン先生：講義ですか。

小越先生：比較的おとなしく受講してくれているんだろう？

ゼン先生：そうですね。最初に、ガツンと怒ったので、その後は、静かに受講してくれています。

小越先生：最初に怒ったのか。

ゼン先生：はい。私が教壇に立って、さて、講義を始めようとしたのに、講義の時間になっているのに大きな声でしゃべり続けて黙ろうとしなかったの。

小越先生：最初から、君の評価はがた落ちだな、ハハハハハ。

ゼン先生：そうかもしれません。でも、ケガの功名かもしれませんが、講義室の前の入口のドアをバタンと閉めて、私が教壇の前に立つと、それなりに静かになります。

小越先生：そうか。それはよかった。講義も静かに聞いてくれているんだな。

ゼン先生：はい。真剣に聞いてくれている学生もいますが、寝ている学生やスマホに夢中になっている学生もいます。

小越先生：あのなあ。君はもう千里金蘭大学のスタッフなんだから、大学の悪口を言うてはいけないんじゃないか？寝ている学生やスマホに夢中になっている学生がいるなんて言うてはダメだよ。「学生達は、全員、静かに、真剣に、私の講義を聞いています」と言わなくちゃ。大学の評価を高めるような会話をしなくてはダメだぞ。

ゼン先生：そういう考え方もありますが・・・。それじゃあ、このゼン先生の栄養管理講座、嘘をつくことになります。そうじゃなくて、いいところはいい、悪いところは悪い、そう伝えるべきです。そうしないと、逆に、評判を落とすことになります。

小越先生：そうか。一応、君としては考えているんだな。わかった。これから、そこをちゃんと考えた会話にしよう。

ゼン先生：もちろんです。

小越先生：この1か月の講義の内容で、話題にできるネタはないのか？

ゼン先生：臨床医学で4回、臨床栄養学で4回、講義したので、いろいろネタはあります。

小越先生：その中から、選んで話をしようじゃないか。

ゼン先生：講義の中で、学生達に「知ってる？」と話しかけたりするんですが、たいいてい、いい返事はもらえません。

小越先生：質問の内容に問題があるんじゃないか？

ゼン先生：優しく、わからなかったらわからないと言ったらいい、そう言ってます。

小越先生：そう言われても、わからないとは言にくいんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれません。でも、この間、あっさりと「わ



↑学生食堂です。私は、学生がほとんどいない時をねらって行きました。ガラガラでした。行ったのは、わずか2回です。食べた昼飯の写真も撮りました。カレーはどんな味なんでしょうか。楽しみ。私としては、オムライス、かつ丼や天丼、スパゲッティも食べられたらうれしい、毎日行くぞ、そう思っているのですが、なかなか、経営的に難しいのだそうです。マクドナルド、王将、ケンタッキー、サブウェイなどもあったらいいのに・・・。

かりません」と言った学生がいて、ドキっとしました。

小越先生：とにかく、学生に質問をすること自体が問題なんだよ、おそらく。以前、学生に嫌われないようにするには、講義中に一人ひとりに対する質問をしないことだ、と言われたことがあったんじゃないか？

ゼン先生：ありました。東宝塚さとう病院のクラークの乾さんや、看護師の川崎さんに、教えてもらいました。

小越先生：それなのに、質問してるのか？

ゼン先生：そう言われても・・・。

小越先生：まあいいだろう。どんな質問をしたんだ？

ゼン先生：正岡子規を知っていますか？

小越先生：正岡子規？知ってるだろう。常識だろう？

ゼン先生：いやあ、知らない学生が多いようです。

小越先生：どんな質問の仕方をしたんだ？

ゼン先生：結核の咯血の話です。結核という有名な俳人がいる。正岡子規って知ってる？知ってる人は手を挙げて、という感じですが。

小越先生：そんな聞き方をしたからだ。手を挙げたりするのがいやなんだよ。自分だけ手を挙げる、自分だけ挙げない、それが嫌、そんな感覚なんじゃないか？小テストとして聞いてみたら、結果は違うかもしれないよ。

ゼン先生：そうですねえ。カーペンターズも知らないようです。

小越先生：カーペンターズ？そんな、古い人の話ばかりを話題にするからだ。やっぱり、君の発想は古くなり過ぎている。

ゼン先生：カーペンターズですよ。全盛期っていつでした？

小越先生：1970年代だよ、50年以上前。知らなくて当然。君が教えている学生って、何年生なんだ？

ゼン先生：3年生です。

小越先生：20歳かそこらの年代だろう？1970年代のカーペンターズを知らないのは当然だよ。

ゼン先生：そうですね？

小越先生：ダメだ、君は、学生達のことが全然わかっていない。

ゼン先生：すみません。

小越先生：そのカーペンターズと栄養とは、どういう関係があるんだ？

ゼン先生：あれ？先生、知らないんですか？

小越先生：君が何を言おうとしているのか、わからない。

ゼン先生：カーペンターズのカレンさん、神経性やせ症になりましたよね。有名な話です。結局、32歳で亡くなったんですが、死因についてはいろいろ意見もあるけど、私は refeeding syndrome だったんじゃないかと思っています。

小越先生：そういうことか。薬剤による心停止かもしれないとも言われているけど。

ゼン先生：いやあ、refeeding syndrome も関与しているはずですよ。だから、refeeding syndrome の説明をする時に、印象的な話題じゃないかと思ひまして。

小越先生：なるほど、そういう意図でカレンさんを取り上げたのか。

ゼン先生：そうなんです。やっぱり、発想は古いでしょうか。

小越先生：古いと言えば古いけど、君の年齢を考えると、しかたないか。学生たちの親の年代だからな。しかし、refeeding syndrome の重要性を印象づけようとした、その意図は悪くないと思う。

ゼン先生：そう言っていただくと、うれしいです。カーペンターズの「Only yesterday」を聞いてもらって、カレンさんの元気な時とやせた時の写真を見せて、refeeding syndrome には気を付けなくてはいけない、そう説明しました。



↑お祝いに、と胡蝶蘭をいただきました。驚き！ありがとうございました。毎日見ていると、開いていなかったつぼみが開くのを観察できました。花びらの数が増えていきます。胡蝶蘭をじっくり観察したことなどなかったのが、結構、感動。千里金「蘭」大学に勤めることになったから胡蝶「蘭」をプレゼントします、とのコメントもいただきました。ありがとうございました。

小越先生：Only yesterday か。「Tomorrow may be even Brighter than today. Since I threw my sadness away. Only yesterday」だな。いい歌だ。

ゼン先生：確かに、いい歌ですが。

小越先生：高度の栄養障害に陥った患者さんに栄養投与をする時は、急速に、大量の栄養を投与してはいけない、と説明したんだろう？

ゼン先生：はい。早く元気にしてあげよう、その気持ちは大事だけど、この refeeding syndrome を知らないで栄養投与を開始すると、患者さんが亡くなることがある、管理栄養士はそれを知っていなければならない、です。

小越先生：その通りだ。しかし、それだけじゃダメだろう。

ゼン先生：もちろんです。電解質にも気を付ける。特に、リンとカリウムには要注意。急に栄養を投与すると細胞内に入って血中濃度が急に下がる。血清リンを測定する必要があることを知らない人が多い。主治医も知らないことが多い。だから、こういう患者さんでは、栄養投与を開始すると refeeding syndrome になることがある、と君らが、管理栄養士が主治医を指導するようにならないとダメだ、と教えています。

小越先生：そうだな。医師は、refeeding syndrome についての



↑私の部屋のある8階研究棟です。プリンタが一番西にあるので、書類などを印刷する時、私は書類のプリントを取りに、毎回、歩いていきます。プリンタまでは往復で130歩なので、私の歩幅を70cmとすると、45mでしょうか。新しくプリンタを購入して部屋の中に置こうかと思ったのですが、やめました。歩数をかせぐことは、私にとって非常に重要なのです。毎日の日課、1万歩歩く、これを継続しなければならないので。

認識がないかもしれないからな。

ゼン先生：どうなのでしょう。医学部では教えているんでしょうか。

小越先生：どうなんだろうね。教えていないかも、な。

ゼン先生：管理栄養士教育ではどこまで refeeding syndrome について教えているんでしょうか。

小越先生：そういう合併症がある、という程度かもしれないな。

ゼン先生：私はカレンさんの神経性やせ症の話と、豊臣秀吉の鳥取城の兵糧攻めの話で refeeding syndrome を印象づけようと思いました。

小越先生：城攻めの話も悪くはない。兵糧攻めで大勢が餓死した。鳥取城の城主が降参した。城の外で炊き出しをして、どんどん食べなさい、となった。喜んでがつがつ粥を食った。Refeeding syndrome でぼったぼったと倒れた、亡くなった、だな。

ゼン先生：そうです。

小越先生：refeeding syndrome を理解させるには、いい例えだな。

ゼン先生：もう一つ、「ある漂流者のはなし」という本がありまして、その中でも refeeding syndrome の話があったので、それも説明しました。

小越先生：漂流者の話？

ゼン先生：はい。37 日間、船で漂流した男が発見されたんですが、発見したマグロ延縄漁船の乗組員が「サララップで包んだ大きなおにぎり 3 個とペットボトルに入った水を渡したら、水をがぶ飲みして、おにぎりを平らげた」とのこと。その船の通信士が海上保安庁に電話連絡をした時の会話なんです。

『通信士は「漂流者は水をがぶ飲みし、おにぎりを平らげた」と伝えた。海上保安庁の係官は「確認に行ってください」という。通信士が「何の確認ですか？」と聞くと、係官は「生死を確認してください」という。通信士が「だから生きています。案外元気そうです。」と答えると、係官は「今は亡くなっているんじゃないですか。長期間、水分も食べ物も摂っていない漂流者が急に飲んだり食べたりすると、誤飲して窒息したり、脳の血管が切れて、そのまま死亡します。よく起きることですから。」と言った。それを聞いて通信士は青ざめた。』という内容です。Refeeding syndrome とは書かれていませんが、急に飲んだり食べたりすると大変なことが起こると、海上保安庁の係官たちは知っている、ということですから。

小越先生：なるほど。その話も refeeding syndrome の怖さを印象付けるのには、有効だと思よ。

ゼン先生：ありがとうございます。本当は、ずいぶん昔の大河ドラマ「黄金の日々」の中の鳥取城の兵糧攻めのシーンを見せた


Re-feeding syndrome

- 慢性的な半飢餓状態に適応した代謝状態の患者に対し、大量の炭水化物を中心とした栄養投与を急速に開始すると、体液と電解質の異常をきたす
- 呼吸循環系(心不全)、神経筋系(昏睡、痙攣)の重篤な合併症が発生する
- トリガーは急速な炭水化物投与に反応するインスリン分泌の亢進と、P, K, Mg の急速な細胞内への移動(低P・低K・低Mg血症)
- 高血糖に伴って浸透圧利尿や脱水が起こる
- チアミン(ビタミンB1)も欠乏状態となる

対策

- 高度栄養障害症例に栄養療法を開始する場合、Refeeding syndrome が発生する可能性があることを理解する
- Refeeding syndrome を発生させないよう管理する
- 投与エネルギー量は徐々に増量していく
- 多量の糖質を急に投与しない
- 血清P, K, Mg 濃度、血糖値を厳重にモニターして補正する
- 微量元素、ビタミン(特にVB1)を投与する

カレンさんの死因は Refeeding Syndrome (Karen Anne Carpenter)



165cm 66kg

165cm 35kg

まとめ: refeeding syndrome

- 管理栄養士は
詳細な栄養評価によって
正確に栄養状態を判定できなければならない
- 管理栄養士の役割
 - ✓ 高度な栄養障害に陥っていると判断したら
Refeeding syndrome を発生させないように
栄養管理を実施しなければならない
 - ✓ 医師を指導する(注意させる)
 - Refeeding syndrome 発生の
リスクがあることを伝える
 - 発生させないための方法を教える

↑ 医師がどのくらい、refeeding syndrome について知っているのか、が問題です。どこまで教育されているのでしょうか。残念ながら、十分に教育されているとは思えないのです。その現実を考慮すれば、今後、管理栄養士が正確な知識を持って、医師を指導する立場になる必要があるのではないかと、私はそう思っています。管理栄養士のレベルアップは、医療レベルを高めるために大事だと思っています。

かったんです。でも、このシーンだけで 60 分以上ありますから、無理なんです。わかりやすいシーンではありました。

小越先生：その大河ドラマ「黄金の日々」は、1978 年の作品で、市川染五郎が主役だったんだよな。

ゼン先生：そうなんです。鳥取城の兵糧攻め、城の中で食べるものがないので、ものすごく大変だったと、非常にわかりやすく示されているんです。

小越先生：戦いが終わって、城の外で大釜に大量の粥を準備して食べさせた、そんなシーンが描かれているんだな。

ゼン先生：そうなんです。「黄金の日々」は私自身が大好きな大河ドラマだったので、昨年、DVD を購入して、見ました。

小越先生：「黄金の日々」の DVD を購入したのか。

ゼン先生：はい。研究費で。

小越先生：どういう名目で研究費を使ったんだ？

ゼン先生：refeeding syndromeについて、学生に教えるのに有効だと判断したから、です。

小越先生：・・・・・・全くの個人的な趣味の話だけ。まあ、いいだろう。とにかく、refeeding syndromeについて、印象深い講義をしようとした、と言いたいんだろう？

ゼン先生：そうです。その通りです。

小越先生：印象づけることは大事だし、同時に、理論的な解説もしたんだな、もちろん。

ゼン先生：はい。グルコースを投与すると、代謝にビタミンB1が必須だから、同時にビタミンB1も投与しなければならない。それから、静脈栄養だけで起こるのではない。食事でも経腸栄養でも起こる。これも重要なことだ。エネルギー投与量としては、最初は5~10kcal/kgで開始して、徐々に投与量を増やす。ゆっくりと増やす。ちゃんと、説明しました。

小越先生：ちょっと内容が高度過ぎるんじゃないか？

ゼン先生：そうですか？でも、こういう内容を知らずにrefeeding syndromeを理解したとは言えないでしょう。

小越先生：そういえばそうだが。

ゼン先生：学生たちは、これから専門家になっていくんです。Refeeding syndromeという合併症があるんだよ、知っておきなさいよ、ではダメでしょう。理論的背景、対応をきちんと教えておく必要があると思います。

小越先生：しかしなあ。付いてこれる学生がどれだけいるんだろう。それはちょっと心配だ。しかし、栄養を投与することによって死亡することがある、それは理解させないとダメだな。

ゼン先生：栄養を投与せずに飢餓に陥らせたなら死ぬことがある、これは理解しやすいんですが、逆に、栄養障害の患者に急に栄養を投与すると死ぬことがある、適正な栄養管理を実施する必要がある、これも理解させなくてはなりません。そのためには、

やはり、理論的にきちんと教えるべきだと思います。

小越先生：まあ、カーペンターズのカレンさんの話や、豊臣秀吉の城攻めの話、漂流者の話などで印象づけながらの解説だから、学生達の頭に入ってくれるだろう。

ゼン先生：そう思って、がんばって付いてきてくれると期待しているんです。



↑今回もこの本を紹介させていただきます。脂肪乳剤をもっと使いましょう、それによって静脈栄養のレベル、ひいては栄養管理レベルが上がる、それを目論んでいるのです。たくさんの方に読んで欲しいのです。よろしくお祈りします。

【今回のまとめ】

1. 新しい職場、千里金蘭大学栄養学部での仕事が始まりました。いろいろ戸惑いながら、なんとか、順調に仕事を始めることができている、と思っているのですが・・・。
2. 部屋の窓からの眺めは抜群です。癒されますし、がんばろうという気持ちにさせてくれます。
3. 臨床医学、臨床栄養学を教えています。いろいろ、私なりに工夫しているつもりです。学生達はどのように感じているのでしょうか。小越先生に指摘されたように、学生の気持ちなんて全然わかっていないのかもしれない。
4. Refeeding syndromeについての講義をしました。内容が難しすぎるかもしれませんが、これからの管理栄養士に求められるもの、を考慮しての講義内容だと思っています。
5. がんばって、私の講義に付いてきてくれる学生が「たくさんいる」、と期待しているのです。